授業科目	病院看護システム管理学特論Ⅰ Nursing Care Systems Management in Hospital Settings Ⅰ	責任教員 手島　恵	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目的	病院における看護システム管理を患者満足の視点から概観し，提供するサービスの質の向上を図るうえでの創造的管理方略ならびに評価方法について論述する.							
到達目標	1．看護の歴史的変遷の視点から看護管理方略の変化を述べることができる. 2．身近な看護管理上の問題の解決方策に対し適切な理論を用いて論理的に説明できる. 3．組織運営における倫理規範の役割について述べることができる. 4．病院における看護サービスの質保証の方略について説明できる. 5．看護管理の研究を実践に活用し，質の改善をはかった例を述べることができる. 6．身近な看護管理上の課題を明らかにし，説明することができる.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～3回	1．管理のパラダイムシフト	なぜサービス論なのか 医療変革を歴史的に概観し，管理のパラダイムがどのようにシフトしているのかを論述する. 複雑な状況をシステムとしてとらえ管理する方略について述べる.	手島 永野
4～6回	2．管理にかかわる諸理論	看護管理にかかわる諸理論を概説し活用方法について述べる. システム論 変化理論　など	
7～8回	3．看護管理と倫理	組織文化，価値が及ぼす影響について述べるとともに，看護職が持つ価値について論じる. 組織文化 組織の倫理　ICN看護倫理綱領　CSR	
9～10回	4．看護サービスの質の保証	看護サービスの質の保証について概説し，質の保証を行う方略について論じる.	
11～12回	5．看護管理の研究と活用	効率的・効果的に看護管理を行う上で有用な看護管理の研究を紹介し，実践への活用について論じる.	
13～14回	6．病院看護システム管理の基礎知識の活用と，所属する組織の現状分析	自分の所属する組織における病院看護管理の現状を明確にし，アクションプランを含むレポートを作成する.	
15回	7．まとめ	各自のレポートにもとづいて発表し，アクションプランについて参加者全員で討議する.	

成績評価基準	討議参加30%，発表10%，レポート60%
教科書参考書等	PFドラッカー（2001）マネジメント基本と原則，ダイアモンド社 佐藤知恭（2000）あなたが創る顧客満足，日本経済新聞社. その他適宜紹介する
備考	

授業科目	病院看護システム管理学特論Ⅱ Nursing Care Systems Management in Hospital Settings II	責任教員 手島　恵	単位数 時間数	2 30	(必修)・選択 受講セメスター	前期	科目等履修生	否
目的	看護における人材開発の基本理論について論述する．また，病院・施設の組織的特徴のなかで適切な意思決定を行い方略的に実行に移し，成果責任を示すための方策について論述する．							
到達目標	1．看護専門職の特徴を説明できる． 2．リーダーシップとマネジメントについて説明できる． 3．適切な意思決定について，例をあげて説明できる． 4．看護サービスにおける人材管理方略の概要について説明できる．							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～2回	1．専門職とは何か	専門職としての条件について概説し，看護専門職について論じる．	手島 永野
3～4回	2．リーダーシップとマネジメント	リーダーシップにかかわる下記の項目について学ぶ ・リーダーシップとは何か ・リーダーシップ理論 ・交渉と説得	
5～6回	3．新しいリーダーシップの概念	変革期におけるリーダーシップのありかたについて概説し討議する．	
7～9回	4．意思決定の過程と技	意思決定にかかわる下記の項目について概説し，活用方法について論じる． ・意思決定の過程 ・意思決定にかかわる理論 ・クリティカルシンキング ・創造的な意思決定 ・コンサルテーション ・意思決定の倫理的側面	
10～12回	5．人材管理の方略	人材管理にかかわる下記の項目について概説し，活用方法について論じる． 人材雇用（募集・面接） オリエンテーション 目標管理 評価一評価の種類 雇用上の問題への対応	
13～15回	6．病院看護システム管理の基礎知識を活用し，所属する組織の現状分析	1～5で習得した知識ならびに技を用いて，相対する価値や考えを含む論題を題材とした討議をおこなう	
	7．まとめ	各自のレポートにもとづいて発表し，アクションプランについて参加者全員で討議する．	

成績評価基準	クラス討議参加70％，ケースレポート30％
教科書参考書等	適宜提示する．
備考	

授業科目	病院看護システム管理学演習 Seminar:Hospital Nursing Care Systems Management	責任教員 手島　惠	単位数	6	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	180	受講セメスター	通年		

目的	病院看護サービスの視点から，高度先端医療を提供する医療施設における看護管理上の事例を系統的に分析し，病院看護システム管理について演習する.
到達目標	1．事例における問題を構造的に分析し問題ならびに問題を構成する要因を明らかにして説明できる. 2．明らかにされた問題を解決するための方策を立て，根拠をもとに目標を設定できる. 3．問題解決ならびに成果を評価する方法を明らかにして示すことができる. 4．問題解決のための一連のプロセスを明瞭かつ簡潔に表現し研究計画書としてまとめることができる. 5．研究計画書の実現性，妥当性について多方面から検討することができる.

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～5回	管理システム問題を分析する手法	演習の目的について説明する. 管理システムとして分析する方法を説明する.	手島 永野
6～20回	自分の所属する組織における病院看護システム管理上の問題	病院看護システム管理上の問題を構造的に分析して問題ならびに問題を構成する要因を明らかにする.	
21～35回	明らかにされた問題を解決するための方策，目標設定	先行研究や文献を検討し，明らかにされた問題を解決するための方策を立て，根拠をもとに目標を設定する.	
36～50回	問題解決ならびに成果の評価方法	先行研究や文献から，問題解決ならびに成果を評価する方法を明らかにする.	
51～75回	問題解決の一連のプロセスの記述ならびに研究計画立案	問題解決のための一連のプロセスを明瞭かつ簡潔に表現し研究計画書としてまとめる.	
76～90回	立案した研究計画の実現性，妥当性についての多方面からの検討	研究計画書の実現性，妥当性について意見をフィールドの協働省などから広く求め，多方面から検討し研究計画書を決定する.	

成績評価基準	討議内容40%，レポート60%
教科書参考書等	適宜提示する.
備考	

授業科目	ケア施設看護システム管理学Ⅰ Nursing Care Systems Management in Long term care settingsⅠ	責任教員 酒井　郁子 予定教員	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		

目的	長期ケア施設における看護システム管理を利用者の自立支援とQOLの向上の視点から概観し，尊厳あるケア提供のための看護システム管理の考え方，方略，実施，評価に関する理論と方法を論じる.
到達目標	1．ケア施設における利用者志向の尊厳あるケア提供サービスのあり方を論述できる 2．ケア施設の理念の具現化に向けた看護管理の責任について論述できる 3．ケア施設におけるケアの質保証のための戦略および資源開発・環境調整を説明できる 4．ケア施設の経営管理に貢献できる看護管理のあり方を説明できる

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1	授業の目的・目標と学習方法および評価	授業の目的・目標・学習方法・評価方法について説明する	酒井 予定教員
2－5	利用者の自立支援とQOLに関する基本的知識	長期ケア施設利用者の自立とQOLに関する基本的知識と諸理論を論述する.	
6－8	尊厳あるケア提供に関わる諸理論と研究の現状	尊厳あるケア提供に関わる研究の現状について概観し関係諸理論を論述する	
9－11	長期ケア施設におけるケアの質保証	長期ケア施設におけるケアの質指標とその保障に関する方策について論述する	
12－13	組織改革の実際と理論化	長期ケア施設の組織改革に関して先進事例を解説し，その特性について論述する.	
14－15	長期ケア施設看護システム管理の基礎知識の活用と所属施設の現状分析	自施設の現状分析を行い，討議し，長期ケア施設間gのシステム管理に関する知識の活用方法を学ぶ	

成績評価基準	参加状況（40%），レポート（30%），プレゼンテーション（30%）により総合的に評価する
教科書参考書等	授業中に提示する
備考	

授業科目	ケア施設看護システム管理学Ⅱ Nursing Care Systems Management in Long term care settings Ⅰ	責任教員 酒井　郁子 予定教員	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		

目　的	長期ケアを受ける人の自立生活を支援する資源開発について理論と方法を論述する．リハビリテーション，エンドオブライフケア，訪問看護・継続看護，IPWなどについて理論と実践への活用について理解を深める．
到達目標	1．リハビリテーションを支える看護システム管理を説明できる 2．看取りを支える看護システム管理を説明できる 3．ケア施設と連携する地域の資源の活用と開発について説明できる 4．ケア施設専門職連携・協働の効果的実践について説明できる 5．ケア施設における人材育成について説明できる

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1	授業の目的・目標と学習方法および評価	授業の目的・目標・学習方法・評価方法について説明する	酒井 予定教員
2－6	リハビリテーションと看護システム管理に関する最新の知識と理論	リハビリテーションの基本的知識，技術の解説を行い，システムとして構築する際の方略について概観し，リハビリテーションの効果指標と評価について論述する．	
6－8	看取りを支える看護システム管理に関する先進事例の検討	尊厳ある看取りを支えるための知識，技術，看護システムについて概観し，先進事例を検討し特質を明らかにする	
9－11	医療ニーズの高い利用者の自立支援	医療ニーズの高い利用者の自立支援に必要な知識，技術，看護システムについて概観し，多様な場における医療ニーズの高い利用者の自立支援のあり方を論述する	
12－13	ケア施設における人材開発と専門職連携・教育	ケア施設における人材育成のあり方を論述し，専門職連携教育の方略について論述する	
14－15	所属組織の課題の抽出と看護管理のあり方の検討	所属組織の看護管理上の課題を抽出し，課題の解決に向けた方略を検討し発表する．	

成績評価基準	参加状況（40%），レポート（30%），プレゼンテーション（30%）により総合的に評価する
教科書参考書等	その都度紹介する
備　考	

授業科目	ケア施設看護システム管理学演習 Seminar: Nursing Care Systems Management in Long term care settings	責任教員 酒井　郁子 予定教員	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		
目的	自立支援とQOL向上の視点から長期ケア施設における先進的な事例を系統的に検討し，施設理念の具現化と方法論，評価方法を習得し，ケア施設看護管理について演習する.							
到達目標	1．事例を構造的に分析し，問題構造を明らかにしたうえで現状を説明できる 2．問題構造から導かれた課題を解決するための方法を習得する. 3．成果を評価する方法を習得する 4．ケア施設看護管理の一連のプロセスを表現し課題解決計画としてまとめることができる 5．課題解決計画の妥当性，実現可能性について多方面から評価できる							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1－8回	ケア施設看護システム管理の分析に必要な理論と手法	演習の目的について説明する ケア施設看護システム管理の分析に必要な理論と手法について概観する	酒井 予定教員
9－15回	先進事例の分析	先進的長期ケア施設の看護システム管理を構造的に分析し，課題解決のための方策とその効果についてクリテークする	
16－40回	自組織の問題構造と現状の分析	自組織のデータから問題構造を把握し，討議を通して深める	
41－60回	課題と目標の設定および方策，効果指標の検討	現状の分析から，自組織の看護システム管理上の課題を設定し，実現可能で妥当な目標の設定，方策の検討を行う	
61－75回	ケア施設看護管理の一連のプロセスを表現する.	ケア施設看護管理の一連のプロセスを表現し，討議で深め，課題解決計画としてまとめる	
76－90回	研究計画書の検討とわかりやすい説明	研究計画書を実現可能性，妥当性，一貫性，理念との整合性などの視点から多角的に検討し，計画書として決定し，わかりやすく説明する	

成績評価基準	討議内容（30%），レポート（40%），プレゼンテーション（30%）により総合的に評価する
教科書参考書等	それぞれ必要時提示する
備考	

授業科目	地域看護システム管理学特論Ⅰ Community Nursing Care Systems Management Ⅰ	責任教員 吉本　照子	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	30	開講セメスター	前期		
目的	地域において人々の多様なケアニーズを効果的・効率的に充足するための看護のシステム化に関し，基盤となる概念と理論を理解し，看護管理者の立場で推進する際の考え方，方法及び評価について論述する．							
目標	1．地域看護システム管理の特質を理解する． 2．地域看護システム管理における看護管理者の活動について，その考え方と方法を理解する．							

回数（1回90分）	学習課題	内容並びに方法	担当教員
1	授業の目的・目標と学習方法の理解	授業の目的・目標，構成と進め方，課題及び評価方法を説明する．	吉本・緒方
2－4	地域看護システム管理の特質の理解	地域看護システム及び管理に関する概念について事例をもとに説明し，特質について討議する．	
5－6	地域看護システムにおける施設の役割	地域におけるケアサービス提供と多様な施設の存在意義に関する考え方と評価について文献を読み，討議する．	
7	高度医療を受けた人々の生活の質保証のための院内・地域連携	大学病院における地域医療連携を推進する看護管理者の実践をもとに，活動の考え方と方法を紹介し討議する．	石橋（非常勤講師）
8－13	地域看護システムにおける施設内・間の協力によるケア提供のマネジメント	地域看護システムを維持・発展させる推進者としての看護管理者の活動の考え方と方法について文献を読み，討議する．	
14－15	地域看護システム管理に関する概念，考え方及び実際の活動の分析と統合	自分が推進する地域看護システムについて，管理の現状と効果を分析し，管理者としての課題を記述する．	

成績評価基準	授業における情報発信60％ レポート40％
教科書参考書等	①島田恒：非営利組織研究－その本質と管理－．文眞堂，2003．②Mintzberg H. Calculated Chaos, H. ミンツバーグ経営論．DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部編訳，ダイヤモンド社，2007．③Mintzberg H. The Nature of Managerial Work, Harpercollins College Div, 1973, マネージャーの仕事，奥村哲史，須貝栄訳，白桃書房 1993．④伊丹敬之：場の論理とマネジメント，東洋経済新報社，2005．等
備考	

授業科目	地域看護システム管理学特論II Community Nursing Care Systems Management II	責任教員 吉本　照子	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	30	開講セメスター	前期		
目　的	地域において人々の多様なケアニーズを効果的・効率的に充足するためのケア資源という観点から，ケア人材，多分野の技術，モノ及びケアサービスに関し，開発の考え方，方法及び評価について論述する．							
目　標	1．人々の自立支援としての環境調整の考え方と方法，評価について理解する 2．地域看護システム管理のための資源開発に関する考え方と方法，評価について理解する							

回　数（1回90分）	学　習　課　題	内　容　並　び　に　方　法	担当教員
1	授業の目的・目標と学習方法の理解	授業の目的・目標，構成と進め方，課題及び評価方法を説明する．	吉本・緒方
2～3	高齢者等の自立支援における環境調整の考え方と評価方法の理解	自立支援の考え方，高齢者の環境評価尺度及びその開発過程を概説し，看護管理者の行う環境調整について討議する．	
4～5	施設環境設計の考え方と方法，技術の理解	施設環境設計における工学的アプローチを紹介し，看護管理者との効果的な協働方法について討議する．	中山（非常勤講師）
6～9	地域看護システム管理におけるケア資源開発に関する考え方の理解	サービスの価値に関する基本文献を読み，ケアサービス利用者からみたケア資源の価値に関する概念について討議する．	
10～13	地域看護システム管理におけるケア資源開発に関する方法の理解	サービスの価値に関する基本文献を読み，ケアサービス利用者からみたケア資源開発方法について討議する．	
14～15	地域におけるケア資源開発に関する概念，考え方及び看護管理者の活動の分析と統合	自分が所属する施設・機関を取り巻く地域ケア資源について，現状と効果を分析し，看護管理者としての課題を記述する．	

成績評価基準	授業における情報発信　60％ レポート　40％
教科書参考書等	Kotler P. Marketing for Nonprofit Organizations, Prentice Hall, 1982. 井関利明監訳，井関利明，井下理，上野博，他訳，非営利組織のマーケティング戦略：自治体大学病院公共機関のための新しい変化対応パラダイム，第一法規出版，1991．等
備　考	

授業科目	地域看護システム管理学演習 Seminar: Community Nursing Care Systems Management	責任教員 吉本　照子	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	2年次通年		
目的	地域における看護のシステム化を推進する看護管理者の立場から，自分が管理責任を担う組織の課題について，解決のための計画立案を行う.							
到達目標	1．自分が管理責任を担う組織の看護について内外環境要因を含めて分析し，課題を設定する. 2．ケア理論，組織の理念及び内外環境要因を考えあわせて，目標，方策及び評価方法を決定する. 3．課題解決に取り組むプロジェクトの組織をつくる. 4．プロジェクトを実施するための計画書を作成する.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1－10	学習課題の理解 自分が管理責任を担う組織の看護の状況把握	演習の目的，目標，進め方及び評価について説明する．自分が管理責任を担う組織の看護の状況分析を行う.	吉本・緒方
11－20	自分が管理責任を担う組織の看護の問題及び課題の明確化	ケアの質，人材開発，地域のケア資源，保健医療福祉制度の動向等を把握し，課題を設定する.	
21－40	課題解決の目標設定，方策と評価方法，協働者の探索	課題解決の要因相互の関連を分析し，協働者を探索しながら，課題解決の目標，方策及び評価方法を検討し，決定する．プロジェクトを実施するための適切な組織をつくる.	
41－90	研究計画書の作成	プロジェクトの内容と必要性，意義を記述し，計画書を作成する.	

成績評価基準	計画書をもとに評価する.
教科書参考書等	各自の課題に副って，紹介する.
備考	

授業科目	情報活用論 Infomatics in Nursing Care Systems Management	責任教員 吉本　照子	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	30	開講セメスター	後期		

目　的	看護管理の動的な状況において，適切な意思決定，合意形成及び問題解決ができるように，自分が管理する組織の課題とその根拠，方策を説明するための方法を習得する．
目　標	1．看護管理のための情報収集と分析，問題解決のための根拠を示せる． 2．協働者とともに目標を設定し，問題解決を行うための方法を示せる． 3．看護管理者の立場から，発生している問題あるいは起こりうる問題について，要因，課題及び解決の方策を決定するための合理的思考過程の展開ができる．

回　数 （1回90分）	学　習　課　題	内　容　並　び　に　方　法	担　当 教　員
1	授業の目的・目標と学習方法の理解	授業の目的・目標・構成と進め方，課題及び評価方法を説明し，計画的な問題解決過程について概説する．	吉本
2－4	質的データ活用の考え方と方法	質的データを分析し，問題解決のための課題を共有するための考え方と方法について講義・演習する．	山浦 (非常勤講師)
5－9	量的データ活用の考え方と方法	量的データを分析し，問題解決のための課題を共有するための考え方と方法について講義・演習する．	緒方
10－12	看護管理の場の問題に関連する先行研究の分析	看護管理の問題と関連する先行研究を分析し，方策を立案するための考え方と方法について講義・演習する．	吉本
13－15	看護管理における課題解決の方策の立案	看護管理者の立場から，発生している問題あるいは起こりうる問題について，要因，課題及び解決の方策を決定する．各自の検討結果に関する発表をもとに，討議する．	吉本

成績評価基準	授業における情報発信30％ レポート70％
教科書参考書等	①Allen KL, ed. Study Skills: A Student Survival Guide. John Wiley & Sons, 2005. 伊藤俊洋監訳，伊藤佑子，黒澤麻美，吉田朱美訳，スタディスキルズ，丸善，2005. ②鯨岡峻：エピソード記述入門．東京大学出版会，2005. ③伊丹敬之：創造的論文の書き方，有斐閣，2001. ④津田久資：「超」MBA式ロジカル問題解決，PHP研究所，2003. 等
備　考	

授業科目	マネジメント実践論Ⅰ Competency for Advanced Nursing Management Ⅰ	責任教員 手島　恵	単位数	2	(必修)・選択		科目等履修生	否
			時間数	30	開講セメスター	前期		

目的	看護管理を効果的・効率的に行うために必要な周辺概念および理論を学び，高度なマネジメントを実践するために必要な知識および考え方を論述できる.
目標	1．包括的なケアシステムに関する概念と考え方を理解する 2．保健医療福祉政策における看護の役割機能を理解する 3．組織経営および経営に貢献する看護管理のあり方を理解する 4．組織管理における社会的責任について理解する

回数（1回90分）	学習課題	内容並びに方法	担当教員
1	授業の目的・目標と学習方法および評価	授業の目的・目標・学習方法・評価方法について説明する（担当教員全員）	手島 吉本 酒井 永野 緒方 （中原）
2－4	包括的なケアシステムに関する概念と考え方	包括的ケアシステムの概念を理解し，諸外国との比較から我が国の特殊性および発展の方向性を理解する.	
4－5	組織経営の基礎	組織論を概観し，組織経営の理論的枠組みを理解する.（中原）	
6－8	経営分析の基礎	保健・医療・介護福祉施設の「経営」の概念をケアマネジメントの視点から把握し、財務分析を中心に経営分析手法の原理及び実践方法を理解する	
9－10	看護管理の経済分析	看護ケアにおける経済分析の理論と方法論，および研究の現状と今後の課題について先行研究などをもとに理解する	
11－13	組織倫理と看護管理	看護管理を実践する際に必要となる組織倫理の視点と課題について概観し理解する.	
14	経営に貢献する看護管理	組織経営に貢献する看護管理の実際について先進事例の検討を通して学ぶ	
15	まとめ	到達目標の達成状況についての自己評価を行い，質疑応答を行う.	

成績評価基準	参加状況（40%），レポート（30%），プレゼンテーション（30%）により総合的に評価する
教科書参考書等	随時指定・紹介する
備考	

授業科目	マネジメント実践論Ⅱ Competency for Advanced Nursing Management Ⅱ	責任教員 酒井　郁子	単位数 時間数	2 30	(必修)・選択 開講セメスター	後期	科目等履修生	否
目　的	看護管理を効果的・効率的に行うための実践的な知識と技術を修得できる.							
目　標	1．ヘルスケアコミュニケーションに関する理論と実践を理解する 2．専門職連携・協働に関する理論と実践を理解する 3．それぞれの実践の場における地域連携に必要な知識・技術を習得する 4．組織の理念の具現化に向けた看護管理のあり方を理解する							

回　数（1回90分）	学　習　課　題	内　容　並　び　に　方　法	担当教員
1	授業の目的・目標と学習方法および評価	授業の目的・目標・学習方法・評価方法について説明する（担当教員全員）	酒井 手島 吉本 永野 緒方 （黒田）
2－5	ヘルスケアコミュニケーションに関する理論と実践	ヘルスケアコミュニケーションに関する諸理論を理解しヘルスケアチームの実践能力を向上するためのさまざまな技術を理解する.（信頼関係の構築，交渉，調整コンサルテーション，スーパーバイズ，教育・指導，カンファレンス・会議の持ち方など）	
6－7	専門職連携・協働に関する理論と実践	患者・利用者中心の医療福祉サービス提供のための専門職連携・協働に関する理論およびチームビルディングと運営に関する理論と実践を理解する	
8－10	地域連携に必要な知識・技術の習得	医療，介護．福祉など領域をこえて行われる利用者志向の地域連携に必要な実践的知識・技術を習得する	
11－13	看護管理に関する事例検討	看護マネジメント実践に関する事例検討を行い，マネジメント実践に必要な基本技術を習得する	
14－15	組織の理念の具現化と看護管理 （まとめ）	これまでの授業のまとめと討議によって自組織の理念の具現化に向けた看護管理のあり方を理解する	

成績評価基準	参加状況（40%），レポート（30%），プレゼンテーション（30%）により総合的に評価する
教科書参考書等	随時提示する
備　考	

授業科目	リスクマネージメント論 Risk Management in Health Care Settings	責任教員 手島　恵	単位数	2	必修・(選択)		科目等履修生	否
			時間数	30	受講セメスター	前期		

目的	提供するサービスの質と，安全の管理に関する基本理念ならびに理論について論述する．また，医療事故の系統的な分析方法を論述するとともに，発生した場合の管理のあり方，及び発生を未然に防ぐための系統的方略について論述する．
到達目標	1．看護サービスにおける安全管理の考え方の変遷と概要を述べることができます． 2．安全管理の評価について，例を示して説明できる． 3．事例分析をとおし，医療事故安全防止対策について述べることができる．

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～5回	サービスの質の保証と安全管理	医療の質の保証にかかわる理念ならびに組織管理のありかたについて論述し，問題解決につながる方略を概説する．	飯塚
6～7回	医療事故の予防	医療事故の発生の実態ならびに安全管理の概説する． リスクマネージャーの機能ならびに役割について論述する．	手島
8～15回	事例分析	医療事故の系統的な分析方法を論述する． 医療事故が発生した場合の管理のありかた，および発生を未然に防ぐための系統的方策について事例分析をとおして論述する．	手島

成績評価基準	授業討議参加40%，事例分析レポート60%
教科書参考書等	適宜提示する．
備考	

授業科目	看護継続教育特論 Continuing Education in Nursing	責任教員 大室　律子	単位数 時間数	2 30	必修・選択 受講セメスター	後期	科目等履修生	否

目的	社会の変化に呼応して質の高い看護サービスを提供できるように，看護実践の場における継続教育の必要性やその学習方法について理解し，看護継続教育改善に資する方策を考究する.
到達目標	1．看護サービスの質を高めるために看護継続教育の考え方と必要性を理解する. 2．実践の場における看護継続教育の理念形成，学習方法，評価方法を理解する. 3．看護継続教育上の課題を明らかにし，改善に向けて具体的に述べることができる.

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	看護継続教育の理解	学習目的・目標と学習課題及び学習方法を提示. 看護継続教育を理解するために教育，（生涯学習），（成人学習）について概説し，看護継続教育とは何か，その必要性について論述する.	大室
2～4回	継続教育に関わる諸理論 キャリア開発と現任教育 看護継続教育の現状分析と課題	キャリア開発のための諸理論について論述する. 実践現場における組織内外の看護継続教育の現状と課題について講義，討議をもとに考究する.	
5～6回	看護実践能力の向上と継続教育	看護基礎教育の現状を概説し，看護実践能力育成の充実を図るための方策について論述する．実践の場における看護実践能力の向上を目指した継続教育について概説し，そのあり方について考究する.	
7～10回	看護実践能力開発のための学習方法	社会の変化に呼応した高度な看護が実践できるための看護継続教育の学習方法を論述する.	
11～12回	看護継続教育と評価方法	継続教育に関わる評価方法について論述し，看護継続教育における効果的な評価方法について考究する.	
13～14回	看護実践能力開発の研究と活用	看護実践の質を向上させるための看護研究を紹介し，実践への活用について論述し，考究する.	
15回	まとめ	これまでの講義，討議内容をもとに各自の所属する組織における看護継続教育の現状を明確にし，課題について討議する.	

成績評価基準	授業への参加状況，レポート成果から総合的に評価する.
教科書参考書等	随時提示する.
備考	

授業科目	看護政策論 Nursing Policy	責任教員 大室　律子	単位数	1	必修・(選択)		科目等履修生	否
			時間数	15	受講セメスター	後期		

目的	保険・医療・福祉政策の動向を踏まえ，看護政策の持つ意義とその仕組みの概要を論述する. また日本や世界の保健医療システムの動向並びにその政策的活動について学習し，発展的立場から看護政策について理解を深める.
到達目標	1．看護政策の歴史的変遷から看護政策の意義や制策活動を理解する. 2．現行の医療・看護を取り巻く政策上の問題を抽出する. 3．看護政策課題を明らかにし，看護の発展的立場から看護政策について提言できる.

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	看護政策の概要	学習目的・目標と学習課題及び学習方法を提示. 変動する社会における看護政策の意義，並びに政策形成上の環境要因を踏まえ，我が国の看護に関する政策的動向について論述する.	大室
2回	政策の基礎 政策決定プロセス	政策とは何か，保険・医療・福祉政策の動向を通して，政策の仕組みと政策決定のプロセスについて論述する.	広井
3～4回	歴史的変遷からみた看護政策活動 看護政策問題	我が国のこれまでの看護政策の歴史的変遷から具体的な政策活動について概説し，これまで果たしてきた政策的意義について論述する．また現行の医療・看護政度について論述し，看護実践の場における看護政策問題，課題について講義，討議をもとに考察する.	大室
5～6回	保健・医療・福祉システムの動向とその政策活動	日本，世界の保健・医療・福祉システムの動向とその政策活動について論述する.	田村
7～8回	看護政策課題と提言 まとめ	これまでの講義，討議内容をもとに看護実践の場における看護政策課題について討議し，看護の発展的立場から提言を含めレポートを作成する.	大室

成績評価基準	授業への参加状況，レポート成果から総合的に評価する
教科書参考書等	随時提示する
備考	

目	看護生涯学習論 Lifelong Learning in Nursng	責任教員 大室　律子	単位数 時間数	1 15	必修・(選択) 受講セメスター	前期	科目等履修生	否
目　的	生涯学習の基本的考え方とその意義を世界的潮流の観点から論述する．また我が国における生涯学習推進のための制度的整備を踏まえながら，看護の発展的立場から看護職者の看護実践能力開発のための学習方法，支援方法について論述する．							
到　達 目　標	1．生涯学習の基本的な考え方，その意義について理解する． 2．看護の質を高めるための看護生涯学習の学習方法，活用並びに支援方法について学習する． 3．看護の発展的立場から生涯情報提供システムと評価について理解する．							

回　数 （1回90分）	学　習　課　題	学　習　内　容　並　び　に　方　法	担　当 教　員
1～2回	生涯学習の基礎	学習目的・目標と学習課題及び学習方法を提示． 生涯学習について，世界の潮流を通して歴史的に概観し，生涯学習の理念，意義について論述する．	大室
	我が国の生涯学習と制度	我が国の生涯学習の動向とこれまでの制度的整備を概説する．	
	看護生涯学習の組織的支援	看護職者の生涯学習について看護の資質向上の観点から概説し，キャリア開発ラダーの意義と組織的支援方法について論述し，討議する．	
3～4回	看護生涯学習方法と活用	看護職者の生涯学習方法について具体的な実践方法とその活用方法を論述する．	岡谷
5～6回	生涯学習情報提供システム	生涯学習情報提供システムとその評価について論述する．	館
7～8回	看護生涯学習と人材育成 まとめ	これまでの講義，討議をもとに各自の所属する組織における看護生涯学習の現状，課題，支援について討議する．	大室

成績評価 基　準	授業への参加状況，レポート成果から総合的に評価する．
教科書 参考書 等	随時提示する．
備　考	

授業科目	家族支援方法論 Methodology for family support	責任教員 予定教員	単位数 時間数	1 15	必修・(選択) 開講セメスター	前期	科目等履修生	否
目的	家族を統合して捉え，家族成員に対する組織的支援活動の実践能力を向上させる.							
到達目標	現在の活動地域での多方面からの家族に対する支援方略を概観・考究し，社会情勢，家族の実情等に即した支援方法の計画立案，実践，評価する方法を身につける.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1回	看護学における家族支援の課題	1）学習の目的・学習課題及び学習の方法の提示. 2）看護の専門活動領域における家族支援の状況および課題の概説.	
2～4回	家族支援の基礎 家族支援の実践方法	1）家族支援にかかわる基礎理論を論述する．また，実際の家族の生活状況を基に，理論と実際の関係を記述，理解し，理論の活用を学ぶ. 2）家族支援にかかわる実践方法について論述する．また，家族の支援場面の記述分析を行い，状況に応じた実践方法の適用を学ぶ.	
5～6回	家族支援の実践活動の現状	1）在宅終末期患者の家族への支援（家族危機，喪失体験，意思決定等を体験する家族への支援活動の実際） 2）地域高齢者の家族への支援（介護，地域資源利用，認知症患者とともに生きる等を体験する家族への支援活動の実際） 3）問題を抱えている家族への支援（虐待への対応，子育て支援，家族療法等を体験する家族への支援活動の実際） ・上記の内容について，現在の保健行政，福祉，医療，心理，教育等各専門領域の実践における家族の問題に対する取り組みの実際を論述する.	
7～8回	所属施設における家族支援の課題の明確化と今後の取り組み	1）家族支援の基礎及び実践方法を基に，活動拠点での家族支援の問題を分析し，効果的で実現可能な支援活動への取り組みを計画し，プレゼンテーションする.	

成績評価基準	授業への参加状況　討論素材の準備　討論への参加　レポート　を総合的に評価する.
教科書参考書等	随時提示する.
備考	

授業科目	慢性病生活指導論 Patient Education for Chronic Illness	責任教員 酒井　郁子	単位数 時間数	1 15	必修・(選択) 開講セメスター	後期	科目等履修生	否

目的	高齢化が進行し慢性病が増加している社会における看護管理者として，慢性病患者が自分らしく生活するようなリハビリテーション指導・援助ならびに生活指導・援助に関する技術を，看護職者が獲得し継続するような教育支援について学ぶ．さらに質の高い慢性病生活指導を実践できるようにするための看護システム管理について検討する．
到達目標	1　慢性病生活指導の現状と課題を理解する． 2　看護システム管理における慢性病生活指導に関する諸問題と方策を理解する． 3　継続した生活指導を可能にする看護職者への教育支援と看護システムを理解する．

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1	慢性病生活指導論の学習目標と学習課題	看護システム管理学における慢性病生活指導論の位置づけを論述し，学習目的，目標を概観する．	酒井 予定教員
2	慢性病を持つ人	慢性病の特徴と患者のニーズに関して，看護理論などを用いて様々な側面から論述する．	
3～6	様々な慢性病の生活指導の現状と課題	糖尿病，肝臓病，高血圧，心疾患，脳血管障害，神経難病，認知症などの慢性病に関する患者教育・生活指導の現状と課題に関して，論述する．	
7	慢性病生活指導を展開する場と方法	慢性病生活指導が展開される場とシステムに関して概観し，どのような改革が求められているのか論述する．	
8	継続した生活指導を可能にする看護職者への教育支援と看護システム	慢性病生活指導に関する自己の関心に応じて，左の学習課題に示した内容について，文献，実践での経験などをふまえてレポートにまとめ，プレゼンテーションを行い，質疑応答を行う．	

成績評価基準	参加状況（50%），レポート（20%），プレゼンテーション（30%）により総合的に評価する
教科書参考書等	アン・マリナー・トメイ他著：看護理論家とその業績　第3版，医学書院，2004. ピエール・ウグ編：慢性疾患の病みの軌跡　医学書院，1995. ナンシー・I・ホイットマン他：ナースのための患者教育と健康教育，医学書院，1996. 酒井郁子編：超リハ学－看護援助論からのアプローチ，文光堂，2005. その他の資料は授業中に提示する
備考	

授業科目	基礎情報活用論Ⅰ Fundamental Informatics in Nursing Care System Management Ⅰ	責任教員 緒方　泰子	単位数	1	必修・(選択)		科目等履修生	否
			時間数	15	開講セメスター	前期		
目　的	看護管理者として問題解決を行なうために，情報を要領よく整理し，正確に捉えることができる．							
到達目標	1．必要な情報を，客観的に吟味して活用できる． 2．基礎的な技術を使って量的な情報を分析できる． 3．基礎的な技術を使って質的な情報を分析できる．							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1	オリエンテーション	授業の目標，構成，進め方について説明する． 文献を通じた看護管理における情報活用の方法論について概説する．	緒方 永野 予定教員
2～3	先行研究の読解	先行研究を読み，看護管理上必要な情報を客観的に把握する方法を演習する．	
4～5	量的データの整理	看護管理に関わる課題を量的データとして収集し整理する基本的方法を概説し演習する．	
6～7	質的データの整理	看護管理に関わる課題を質的データとして収集し整理する基本的方法を概説し演習する．	

成績評価基準	授業への参加　30％，課題レポート　70％
教科書参考書等	随時提示する．
備　考	

授業科目	基礎情報活用論Ⅱ Fundamental Informatics in Nursing Care System Management II	責任教員 緒方　泰子	単位数	1	必修・(選択)		科目等履修生	否
			時間数	15	開講セメスター	前期		
目　的	看護管理者として，問題解決に活用できるよう，多様な情報を分りやすくまとめ論述できる.							
到達目標	1．情報を概観し，特徴を捉えて活用できる. 2．臨床現場における様々な事象を的確にとらえ，わかりやすく論述できる.							

回数（1回90分）	学習課題	学習内容並びに方法	担当教員
1～4	情報の論述・表現技術	看護管理に関わる質的・量的情報を論理的に要約し表現する方法について概説し演習する.	緒方 永野 予定教員
5～7	論述演習	臨床現場における情報を論理的に要約し論述する方法について演習する.	

成績評価基準	授業への参加　30%，課題レポート　70%
教科書参考書等	随時提示する.
備　考	